

番号	5	令和3年度公共事業事後評価調書			担当課名[農地保全課]	
事業名	農地保全整備事業			事業主体	静岡県	
箇所名	村山			市町名	富士宮市	
事業概要						
事業の目的・必要性	<p>急傾斜地帯（土地の平均斜度が15度以上の地域をいう。）若しくはこれに準じる地帯又は特殊土壌地帯（浸食を受けやすい性状の土壌地帯をいう。）における農用地の浸食、崩壊を防止する。</p> <p>本地域は富士マサと呼ばれる特殊土壌地帯であり、農地の浸食による被害が発生している。近年の農業情勢を踏まえ、農作業労力の負担軽減や、農業経営の安定化を図るために排水施設の改善を実施し、農地を保全する。</p>					
受益面積	129	採択年度	平成2年度	完了年度	当初	平成16年度
					実績	平成27年度
事業量	承水路(10)4,640m、集水路(7)1,773m、排水路(2)943m 水路兼農道(17)9,408m、関連農道(3)2,638m					
施設の利用状況や被害軽減効果等						
前回	事業費 2,350百万円	事業期間 平成2年度～23年度	施設の利用状況や被害軽減効果等			B/C : 1.01 EIRR : -
事後	事業費 2,458百万円	事業期間 平成2年度～27年度	施設の利用状況や被害軽減効果等			農業の持続的発展に関する効果 年総効果額：166,503千円
差	事業費 108百万円増 (1.0%増)	事業期間 4年延長	施設の利用状況や被害軽減効果等			農業の持続的発展に関する効果 年総効果額：224,556千円
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業費、事業期間 概ね計画どおり。用地交渉において条件整備交渉などに不測の時間を要したことによる工期の延伸。</li> <li>施設の利用状況や被害軽減効果等 単収および単価の変動等による増。新規効果の国産農産物安定供給効果を計上。</li> </ul>						
事業の効果の発現状況						
<p>&lt;農業の持続的発展に関する効果&gt;</p> <p>1 災害防止効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施前のS54～63年の10ヶ年において、合計25.2haで64,589千円の被害が発生した。これらは、降雨による耕作土の流失等、農地や農業用施設の被害であった。しかし、事業実施後は、これらの被害報告がなくなった。</li> <li>事業実施前 64,589千円 ⇒ 事業実施後 被害なし(△64,589千円)</li> </ul> <p>2 営農経費節減効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水路兼農道の整備により、営農時間の短縮による作業の効率化が図られた。農道整備による拡幅等により乗用機械の導入が可能となり、キャベツを例にとると営農時間が151時間/ha軽減された。</li> <li>事業実施前 1,975年間時間/ha ⇒ 事業実施後 1,824年間時間/ha(△151時間)</li> </ul> <p>3 走行経費節減効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水路兼農道の整備により、農作物の輸送、通作の作業効率の軽減が図られた。</li> <li>事業実施前 398.3年間時間/ha ⇒ 事業実施後 6.4年間時間/ha(△391時間)</li> </ul>						
事業により整備された施設の管理状況						
<p>1 施設の維持管理状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業で整備された各施設は、富士宮市と地元自治会が協力して管理している。なお、自治会では、年2回半日程度の定期点検・清掃を行い適切に管理を行っている。</li> </ul>						

## 事業実施による環境の変化

### (1) 農山漁村の生活環境について

- ・耕作度の流亡被害が無くなり、農道が整備されたことにより、多彩な作物が栽培されている。
- ・少量多品種の栽培により、ファーマーズマーケット等の直売所への出荷が盛んとなった。
- ・露地での落花生、トウモロコシは、出荷時期が限定されており、直売所でも反響を呼んでいる。
- ・少量多品種の栽培のため、地元小中学校の給食でも、地場産の農産物の使用率が高く、全国平均26%に対して37%である。また、新鮮な地場産物として子供たちにも喜ばれている。
- ・伝統野菜村山ニンジンの周知、栽培の継続を図るとともに、農業への理解を深めるため、地元小学生による収穫体験等も行われている。

## 社会経済情勢等の変化

### (1) 地域社会の動向

- ・人口減少、少子高齢化の波は、本地域についても懸念される。しかし、人口減少傾向はあるものの、世帯数は増加するなど、新たな世帯が生まれている。  
 H24-1,117人 → R2-1,029人 (88人減 △7.9%)  
 H24-379世帯 → R2-389世帯 (10世帯増 2.6%)

### (2) 地域経済の動向

- ・「富士山野菜センター」や、H10有志により開店された「農民市場」の繁栄に加え、H20年にはJA富士宮によりファーマーズマーケット『う宮～な』が開設されるなど、農作物の販売促進がされている。これは、地域農業者の直売方式により運営が図られ、「市場出荷」に対抗した新たなニーズとして現在に至り、コロナ禍に益々盛況であり、『う宮～な』は令和2年度は13億円の売り上げを記録し、JAが開設した県内ファーマーズマーケットの中で1位を誇っている。

## 対応方針（案）

### (1) 評価結果

- ・事業効果は十分に発現しており、地元の期待に十分応えられた。
- ・近年の豪雨の頻発化や激甚化においても、整備事業実施前のような被害報告はないことから、営農や生活環境が向上しており、事業効果は十分発揮されているといえる。

### (2) 今後の課題等

- ・村山地域の伝統野菜である村山ニンジンやシキミ、落花生等の地域の特色ある農産物のブランド化を目指す。

### (3) 同種事業への反映等

- ・本事業による排水路や水路兼農道の系統的な整備により、耕作土の流亡に対する事業効果が発揮されたことから、今後、土壌侵食が課題となっている地域において、本地区の土壌浸食防止工法を活用していく。